

視 察 報 告 書

1 視察年月日

平成31年2月6日から2月8日まで

2 視察場所

平成31年2月6日(水) ①鹿児島県鹿屋市串良町柳谷集落自治公民館
平成31年2月7日(木) ②大分県別府市 社会福祉法人別府発達医療センター
平成31年2月7日(木) ③大分県別府市役所
平成31年2月8日(金) ④大分県別府市 社会福祉法人 太陽の家
平成31年2月8日(金) ⑤大分県別府市 NPO法人自立支援センターおおい
た

3 視察事項

- ①地域再生と柳谷集落の取り組みについて
- ②現状と今後の課題と展開について
- ③ともに生きる条例を中心とした、共生社会実現への別府市の取り組みについて
- ④施設の活動と課題、今後の活動について
- ⑤別府・大分バリアフリースーツアーセンターの活動と課題、今後の活動について

4 視察参加者(3名)

阿部洋子、染谷和博(別府市役所、太陽の家、バリアフリースーツアーセンターは公務により不参加)、落合信太郎

5 視察行程

別紙のとおり

6 視察報告

別紙のとおり

上記のとおり報告します。

取手市議会議長 入江 洋一 殿

平成31年3月7日

取手市議会会派公明党 代表者 齋藤 久代 (印)

行政視察報告書

取手市議会議員 染谷和博

- 1 視察日
平成31年2月6日（水）
- 2 視察先
鹿児島県鹿屋市串良町柳谷自治公民会
- 3 調査項目
地域再生と柳谷集落の取り組みについて
 - ・これまでの経過や実施事業
 - ・事業経費
 - ・今後の予定
 - ・その他、調査事項についての説明
- 4 視察内容
説明者 柳谷町内会代表 豊重哲郎

これまでの経過

地域再生&創生

行政に頼らない感動の地域づくり

柳谷町町内会は平成8年に130世帯25人の集落で過疎化が進みこのままでは集落の維持ができない状況になった。

地域の積立金は1万円にまでなっていた。

豊重さんは銀行員を務め、その後、事業を起こし失敗、借金3,000万円をうなぎ屋の経営で完済し、地元に貢献をしたいとの思いで寂れゆく故郷の復活を目指して公民館館長に住民の皆さんの推薦で就任した。

「地域再生&創生」を掲げて改革に乗り出した。

3つの目標、「住民自治、自主財源、還元」です。

まずは自主財源を確保するため、さつまいもを耕作放棄地に作付けした。

しかし全員の協力を得るのは大変な労力があつた。

様々な工夫の末、集落の協力を得られ事業が進み始めた。

その後、焼酎の製造、味噌の製造、韓国との交流を生かし無農薬唐辛子の製造など、6次産業まで手がけ、しっかりと利益を上げ、全世帯に利益を還元できるようになった。やねだん、組織を作りそれぞれに予算を付け、様々な事業に取り組むには、やはり財源がなければ出来ない。

事業が成功すると地域再生リーダー養成をミッションに 2007 年豊重哲郎私塾をスタートした。卒塾生の中から約 50 名を対象を絞り、高度な地域再生リーダー養成をミッション開催した。

故郷創生塾は今年で 25 回になる。もちろん有料のため町会の収入につながる。

事業によって上げた収益を町会にも還元している。全員に 1 万円のボーナス、高齢者のためのシルバーカー 30 台（貸与）自転車 5 台（貸与）などがある。

I ターン U ターンをさせるため、芸術家を永住させ子どもに本物の文化に出会う環境を整え、古民家の再生などにも取り組んだ。

その後、増えた子ども達に対して寺子屋やピアノ教室などを開催しステップアップを図っている。

視察は年間 3,000 名が押しかけている。これも自主財源の確保に役立っている。

豊重さんの後継者も誕生していて、今後の進展も期待できる。

自主財源を稼ぐ

さつまいも栽培

集落の自主財源確保のため、休遊地を借用して「カライモ（さつまいも）」の生産活動を行っている。

土着菌

土着菌は、やねだんの土中に生息する細菌に米ぬかや砂糖を加え発酵させたものです。

居酒屋「やねだん」・芋焼酎「やねだん」

休遊地の活用が実を結んだ「カライモ生産活動」の次なる展開とし、芋焼酎を開発・販売を行っている。

手打ちそば「やねだん」

土着菌を活用して生産した新鮮な食材を使って、食堂をオープンした。

以上、地域再生&創生の先進地の鹿屋市串良町柳谷自治公民会の視察報告とします。

取手市議会公明党 代表 齋藤久代 殿

行政視察報告書

取手市議会議員 阿部洋子

1 視察日

平成31年2月7日（木）

①午後1時30分～午後3時

②午後3時30分～午後5時

2 視察先

①社会福祉法人 別府発達医療センター

②別府市役所 障害福祉課

3 調査項目

①別府発達医療センターの現状と今後の課題と展開

始めに概要の説明を副理事長でありセンター長の福永様よりスライドを通しご説明いただきました。

このセンターは昭和32年10月に「別府整肢園」として開園（定員50名）。東京大学名誉教授の高木憲次氏（1888～1963）によって提唱された概念である「療育」とはから始まり、後に療育の概念をさらに発展させて「発達支援」という概念が生まれ、今日に至っていることをご説明いただきました。

当法人理念は「和顔愛語の精神で、地域福祉に貢献する」（23年3月18日）、をもとに、12の倫理綱領、行動規範が示されております。

職員研修におきましては、過去の事件・事故を風化させないために、安全管理対策強化期間（6月9日から7月4日の期間）を継続実施。階層別研修では、新任職員研修、中堅職員研修、監督者研修、特別研修を実施し、利用者が安全に過ごせるよう職員全員でセンター全体の安全環境整備に取り組まれております。

センター内を案内していただきましたが、個別のOT室がかなり充実していて、市内外、県内外からの利用者も多いようです。

安心して早期療育できることはとても大切なことです。

議会事務局佐藤様に同行いただき、送迎をしていただき感謝申し上げます。

②ともに生きる条例中心とした、共生社会実現への別府市の取り組みについて

別府市役所では議会事務局長の挟間様、松川次長様に別府市の概要のご説明をいただきました。

視察項目の「ともに生きる条例」について、障害福祉課大野課長はじめ担当職員の皆様にご説明いただきました。

この条例は「別府市障害のある人もない人も安心して安全に暮らせる条例」通称：『ともに生きる条例』として平成25年9月に制定し26年4月に施行されました。

共生社会の実現をめざす条例として全国でも市で制定しているのは別府市を含めさいたま市、八王子市3市のみなので、視察も多数おいでになっているそうです。

制定にあたって約2年間を要し、前文のところで障がい当事者の方々との意見交換を十分に行っております。

合理的配慮の推進（第6条・第10条～第16条）はともに生きる条例の大きな柱に位置付けられており、市等が行う合理的配慮について場面ごとに規定されております。

第10条 生活支援

第11条 生活環境

第12条 防災

第13条 雇用・就労

第14条 保健・医療

第15条 保育・教育

第16条 芸術文化・スポーツ

そしてこれらの規定に従い、市が毎年合理的配慮の実施状況を確認し、評価を行うこととしています。

第23条では親亡き後等の問題を解決するための取り組みも明記されております。

これを受けて「別府市親亡き後の等の問題解決策検討委員会」が設置されました。

6つの課題

1、意思決定支援・生活支援

2、居住の場

3、社会参加の場

4、経済面の問題

5、相談体制の充実

6、地域福祉の推進 の分析を行い28年7月には施策をまとめられていま

す。

条例施行に伴い、啓発においては、市役所職員に対しては既に全職員に対し理解を深める研修が終了しているとのことでした。

この講師は、障がいに対する理解を深める研修・啓発講師団 10 名で行われ、26 年度から 29 年度の 4 年間で 27 回開催し、延べ約 1,600 人が参加されています。

29 年度からは「小学校・幼稚園訪問ワークショップ事業」を実施され、延べ 1,327 人が参加されています。

より多くの市民の皆さんに知ってもらうことが大切であり、更なる啓発が課題のようでした。

市内では合理的配慮がなされている店舗をよく見かけました。

以上 福祉政策の先進地別府市の視察報告とします。

行政視察報告書

取手市議会議員 落合信太郎

- 1 視察日
平成 31 年 2 月 8 日（金）
①午前 10 時～午前 11 時 30 分
②午後 1 時 15 分～午後 2 時 15 分
- 2 視察先
①社会福祉法人 太陽の家
②別府・大分バリアフリースターセンター
- 3 調査項目
①施設の活動と課題、今後の活動について
②活動と課題、今後の活動について

4 視察内容

①

【太陽の家・概要】

創設者の中村裕博士が 1965 年以来、「No charity ,but a chance」(保護より機会を)の理念の下、50 年以上に渡り、障がい者の働く場づくりの先駆けとして、社会復帰支援に取り組んでいる。日本を代表する大企業と連携して、共同出資会社をつくり、多くの障がい者の雇用を実現しております。現在は、別府市掛川本部の他、5 事業部まで発展し取り残される障がい者がいない社会の実現を目指し取り組んでいます。

【創設者 故・中村博士について】

博士は、大分県別府市に生まれ、1951 年九州大学医学専門部を卒業後、同大学の整形外科医局に入局。当時未開の分野であった医学的リハビリテーション研究の道を歩み、英国のストック・マンデビル病院に留学した。そこではリハビリテーションにスポーツを取り入れ、医師がさまざまな分野の人と連携して、脊髄損傷者の社会復帰を支援していた。このことに衝撃を受け、身体障がい者の社会参加、特に仕事を通じての自立とスポーツに情熱を注ぐことになる。1964 年東京パラリンピックにて日本選手団団長を務め、障がい者は仕事を持ち自立することが最も必要であるという信念に至る。博士は、「世に身心障害者はあっても仕事に障害はあり得ない」と訴え、多くの障がい者の雇用や、障がい者スポーツ大会の開催を提唱し、国内外において障がい者スポーツの発

展に尽力されました。

【太陽の家・事業概要】

太陽の家では、障がい者を支えるための取り組みがなされ、多くの人たちが自分の能力を発揮して働いています。

別府工場（定員：40名）

・就労継続支援A型：別府工場（定員：40名）制御機器部品の組立・部品のピッキング作業

ベルトコンベアーを中心に、それぞれの障がいに応じた工程分担、また治具などを活用し、作業をされておりました。サンスストア（定員20名）スーパーマーケット部門・あおぞらカフェ部門他

・就労継続支援B型：（定員：175名）制御機器科（制御機器部品の組立）情報処理科（コンピューターソフト開発など）他

・就労移行支援：2年間で一般就職を目指す訓練コース

・生活介護・障害者相談支援センターたいよう・障害者就業・生活支援センターたいよう

・ホームヘルプセンターたいよう・コミュニティセンター（多目的ホール）

・サンスポーツセンター（体育館 プール トレーニングルーム）・太陽住宅（簡易住宅）

・太陽の湯（公衆浴場）・施設入所支援

【共同出資会社】

オムロン太陽株式会社、三菱商事太陽株式会社、富士通エフサス太陽株式会社、ソニー太陽株式会社、ホンダ太陽株式会社、ホンダR&□太陽株式会社、デンソー太陽株式会社、オムロン京都太陽株式会社。現在、上記8社あり、多くの障がい者を雇用しております。企業が仕事の確保と生産、技術指導を太陽の家が支援している。

【今後の課題】

・現在は健常者と同様に、障がい者の方たちの高齢化による課題もあるが、障害者支援施設などで

専門的な知識を持つケアワーカーなど支援に努めている。

・所感

太陽の家には、障がい者を支えるための多くのユニバーサルな環境づくりがされていました。また地域にも障がい者と共に生きる精神が育まれていることを実感しました。すべての人の能力が最大限に発揮される社会を実現するためにも、太陽の家の取り組みは、当市においても大変参考になるものでした。

②

【センターの活動と課題】

当センターは、障がい者や高齢者の方たちが、旅をする際にバリアフリーに関する情報が乏しいとの声に応え、日々新鮮な情報の発信など行っています。障がい者や高齢者も

障がいの有無に関係なく地元大分の魅力を知ってもらい、安全で安心した「旅」を楽しんで欲しい！との思いで活動しています。

- ・パーソナルバリアフリー基準調査

障がい者視点による現地調査により、観光施設のバリアを明らかにしています。非常に重要な活動の一つです。

- ・バリアフリー改修コンサルタント

長年にわたり蓄積された経験とネットワークを活かし、都市計画や建築設計などのアドバイスや提案活動。

- ・温泉入浴介助

一人で入浴が困難な方に対し、資格を有したヘルパーさんを派遣し、ホテルや旅館などの温泉施設で入浴を堪能していただくサービス。

- ・バリアフリー情報発信

パーソナルバリアフリー基準調査で得た観光施設の飲食店や温泉施設のトイレや交通などの情報を

当センターホームページにて情報発信。

- ・バリアフリー観光・旅行相談

豊富な情報とネットワークにより障がいがある方も充実した旅行ができる相談業務。

- ・バリアフリーセミナー・講演

研修や当事者スタッフより講演や、温泉介助の方法など。

参考：障がい者・高齢者温泉入浴介助の料金は介助者1名（1時間）4,000円その他別途

年間のセンター利用者数は百数十名とのことです。

【今後の活動】

大分県別府は日本屈指の温泉観光地として全国にその名をはせております。当センターは、車椅子など障がいがある方も快適で充実した旅の思い出づくりのサポーターとして、一人でも多く方たちに「自分らしい旅の実現」を叶えるために更なるバリアフリーツアーの認知度アップに取り組む。

【所感】

今回、当センターのスタッフから若くして交通事故により車椅子の生活となった経緯からお話しいただき感謝申し上げます。現在、日本バリアフリー推進機構が運営する「全国バリアフリー旅行情報」は、北海道から沖縄まで全国で20の団体が地元の観光地を全国統一した「パーソナルバリアフリー基準調査」を用いたネットワークで情報発信しています。障がい者団体方たちとの意見交換の場での情報を、ホームページ等で発信、

市内での移動や施設のバリアやバリアフリー整備の情報を、マップを活用し提供できたら有効と考えます。

以上 障がい者施策先進施設とバリアフリー対応活動先進施設への視察報告とします。

茨城県取手市議会会派「公明党」行政視察研修行程表

○2月6日（水）

取手駅……品川駅……羽田空港（SNA73）……鹿児島空港…（リカー）
6：37 発 08：10 着 10：00 発 11：50 着
…鹿屋市串良町柳谷集落自治公民館視察…（リカー）…鹿児島市内ホテル
15：30～17：00 20：00 頃着予定

- ・鹿児島県鹿屋市串良町柳谷集落自治公民館（館長 豊重哲郎様）

住所：鹿児島県鹿屋市串良町上小原4694-2

電話：090-4517-9578

研修事項

○地域再生と柳谷集落の取り組みについて

- ・これまでの経過や実施事業
- ・事業経費
- ・今後の予定
- ・その他、調査事項についての説明

【宿 泊】

鹿児島東急REIホテル

住所：鹿児島市中央町5-1

電話：099-256-0109

○2月7日（木）

ホテル……鹿児島中央駅…（さくら544）…（小倉駅 乗換）…（ソニック11）
7：40 発 8：06 発 10：02 着 10：09 発
…別府駅…（昼食）…（路線バス）…①別府発達医療センター 視察…（路線バス）
11：28 着 13：30～15：00
…②別府市役所 視察…（路線バス）…別府市内ホテル
15：30～17：00

（※別府発達医療センター視察後、1人帰路へ 大分空港…（18：10 発 ANA800）…羽田空港）

①社会福祉法人 別府発達医療センター

住所：別府市大字鶴見 4075 番地の 1

電話：0 9 7 7 - 2 2 - 4 1 8 5

研修事項

○別府発達医療センターの現状と今後の課題と展開について

- ・理念「倫理綱領」
- ・職員研修

上記における概要、経費、今後の展開など

②大分県別府市役所（行政棟）

住所：別府市上野口町 1-15

電話：0 9 7 7 - 2 1 - 1 5 4 7（別府市議会事務局議事総務課 オオキ様）

研修事項

○ともに生きる条例を中心とした、共生社会実現への別府市の取り組みについて

- ・事業の進捗状況、今後の課題と展開など

【宿 泊】

西鉄リゾートイン別府

住所 大分県別府市北浜 2-10-4

電話 0 9 7 7 - 2 6 - 5 1 5 1

○2月8日（金）

ホテル…別府駅…（JR）…亀川駅（徒歩 5 分）…①社会福祉法人 太陽の家 視察…

9:27 発

9:34 着

10:00~11:30

…亀川駅…（JR）…別府駅……②別府・大分バリアフリーツアーセンター視察…

11:57 発

12:03 着

13:15~14:15

…別府駅（空港バス）… 大分空港（SNA92）……羽田空港…

14:47 発

15:38 着

17:00 発

18:30 着

…品川駅……取手駅

①社会福祉法人 太陽の家

（太陽の家 事務局長 宮原実乃様・法人本部長 四ツ谷奈津子様）

住所：大分県別府市内 竈^{うちかまど}1393-2

電話：0 9 7 7 - 6 6 - 0 2 7 7

研修事項

○施設の活動と課題、今後の活動について

②別府・大分バリアフリースターセンター

(NPO法人自立支援センターおおいた カンダ 様)

住所：大分県別府市北浜1-1-20

電話：090-6633-4882

研修事項

○センターの活動と課題、今後の活動について